<座談会>

〝備えあれば〟

今年の災害 対策を語る

■ NHK—TV再録　■ 5月30日　14.05〜14.25放送

ここ三、四年程は大きな水害がなかった。だが今年は大雨が降りそうだ。
県をはじめ各関係機関では、いま災害対策に万全を期しているが……

出席者（発言順）
熊本大学教授　**堀　一夫**
作家　**荒木精之**
熊本県土木部長　**坂田静雄**

堀　いよいよ梅雨ですね。この頃になると、いつも思い出すのが二十八年と三十二年の水害ですね。

荒木　そうそう。二つともひどかつた。特に二十八年の大水害はひどかつたですね。僕の家は九品寺ですが、水が軒下近くまできましたよ。もう家の中はサンタンたるものだつた。

堀　あの頃坂田さんはどこに…

坂田　私は鹿児島にいて、七月十六日だつたか、お見舞にはせ参じましたが、その時は、まだ子飼橋に木材がひつかかつていましたよ。

荒木　自分の家の前を死体が流れていくという有様ですからね。あの時は死者だけでも五百人以上とか……

堀　そうです。五百三十人です。あの被害が九百何十億……

坂田　えゝ、ちよつと一千億円近いですね。熊本県は二十八年でやられて、又三十二年でやられた……ふんだりけつたりですね。

堀　二十八年のは水害というより泥害でしたね。こんなに何年ごしかに災害があるとなると、やはり県民は心配せざるを得ないですね。

ところで、今年の雨の予想なんですが、このあいだ気象台に尋ねましたら「六月中はむしろ干ばつ気味、然し下旬に大雨が降るかもしれない。そして七月の上旬から中旬に大雨が二回位くるかもしれない。そうなると県の北部では水害のおそれがある」ということなんです。

こんな状態を前にして、県の今年の水防態勢はどんなになつているんですか。

坂田　熊本県は阿蘇山を中心にして、大きな川が四本も流れています。危険カ所がその川にそつてずつとあるのです。

そんなカ所には移動無線カーを配置しておりますし、又、県下各土木事務所毎に無線通信の機械を備えつけています。

堀　それが時々刻々流量の変化をしらせるとか、雨量の変化をしらせるとかするんですか。

坂田　そうです。県の河川課に対策本部が設けられますが、ここに、県下各地の情報が無線でどんどん入つてくるのです。

これを放送局やその他関係機関に流して「どこそこ地区が危険です」ということになるわけです。

それから、各地区では水防協議会が設けられて、いろいろ実際的な対策を練つたり、訓練をしたりしておられます。

堀　ところで、危険カ所が毎年発表されますが—今年は二百七十六カ所ですか……この数は毎年ちつとも減らないようですが、これはどういうことなんですか。

坂田　それはまあ、時計を新しいのと変えてもやはり油をさしたり修理をしたりしなければいけないのと同じように、川というものは生きものですから、皆さんがお使いになる、ジャリを採るということなどで、どんどん形が変つてきますからね。常に見はつていなければいけないわけです。

堀　我々から見ると、〝サイの河原〟みたいなものですね。一方で積んで、一方では崩れていく……。

荒木　抜本的なことはできないものですかね。災害復旧費は相当おつかいになつているんでしょうがね。

坂田　災害復旧とはいいましても、たゞもとの姿にもどすだけではなく、一歩進めて「河川改修」として大きくとりあげているわけです。

堀　ところで、過去十年位の災害復旧事業を金額にすると、どれ位になりますか。

坂田　二十八年災害復旧費が約六十億円、三十二年のが十億円程度。その次の三十三年のが十五億円ぐらい……

荒木　復旧費というのは、壊れた堤防などをなおすとか……

堀　なおすといつてもね、それは「改良」も加味しているんでしょう。しかしこれだけでは万全ではないので、「改修」ということをとりあげたわけですね。これだけのものを投入なさつて、なおかつ二百何十カ所なんていう危険カ所が出てくるわけですね。

坂田　えゝそうです。それは、どうしても改修でいかなければならないので、二十八年水害の復旧が六年かゝつてでき上つていますけどね……。それで当面の危険カ所は全部やつてあるわけです。

荒木　当面というのは、平年だつたら何も起らない……。

坂田　えゝそうです。まあ白川の例をとりますと、二十八年の水害で、子飼橋があれだけ材木がつまつた。それがもう立派な橋ができていますので、あのように再び雨で熊本市が泥害を受けるということはございません。ご安心下さい。

堀　坂田さんにおまかせ下さいと……（笑）

荒木　いつも心配するけどね。川は山の土砂がいつも流れこんでいますね。その浚渫は、われわれの目にふれるところでは行われていない。微々たるものだと思うんですね。しかしこの浚渫を大々的にしないことには……。

これはひとつのシーソーゲームみたいなものでしよう。この浚渫をしなければ川床が上つてくる一方でしよう。だから堤防を高くする。橋を高くする。われわれは川の底に沈んでしまう…これが何かコッケイな、変な気がするんですね。

坂田　その浚渫をしなければならないところは、河川改修でやります。しかしそれでもなおかつ橋はあげなければいかんというわけです。というのは、水面と橋との間は、くりあげておかないと、木材その他が流れて、ひつかゝる。もちろん、橋脚の間を広くとりますけど……

荒木　たゞね、流れることによつて川上の方にふえる水量の大分が流れるかも知れませんが、洪水の場合、それよりも水量が出てくるはずですがね。

坂田　それでね。今あなたがおつしやつた、計画以上に水が出た場合にですね、そういう事に備えるという意味で、上流は大きなダムをつくつて洪水調節をするとか、又は、山に木を植えるとか、砂防工事をやるとかいろいろやつているわけです。

白川の上流には農林省も建設省も相当砂防工事をやつています。皆さん、こういつたことはご存じかと思いますが、なかなか山の中のことはね……阿蘇の火口はご覧になつても、そういう所は見て頂けないんで……（笑）

堀　しかし植林ということでもね、これは何十年と経たなければ、水をうけるだけの根のはり方はしないと思うのです。

まして四、五年しかたつていないからやはり不安な気がするわけです。

荒木　気が気ぢやないですね。

坂田　山には自然の復旧作用がありましてね。二十八年水害後十年たつていますが、阿蘇の山腹をずつと歩いてご覧なさい。相当草が被覆してキレイになつています。

堀　災害復旧、まあ改修ですね。それをやる場合に、今二十八年から十年たつてるとおつしやいましたけど、これは計画的に、非常に永い年月をかけてやるということでなければ困ると思うんですけどね。

坂田　その点、私どもの悩みですがね。

堀　改修工事は%でみると非常に遅々たるものなんですね。

坂田　一番進んでる菊池川で三三%、白川で一五%ですが、もつと大きな予算がつかないと、一つの川をやるのに百年もかゝるということになるんです。

堀　水害のあつた直後は、国も県も全力をあげて河川改修なり、災害復旧に進むようなことで……実際的になると十年計画とか三十年計画とかになつて、結局なしくずしに変な具合いになつてしまうんですね。又、そういう計画でやつているうちに又、水害がくる。結局今まで投入した金がムダになつてしまう……

荒木　と素人考えでは……

坂田　今は、道路ブームでこの方面は盛んにやつてますけど、水害からすぐ河川は忘れられるんですね。予算もなかなかつかない。そこでやはり沿岸の皆さんも、水防活動その他をやつて、生命財産を守つていくということが大事になつてくると思います。

堀　では県民としてどういう事を心がけておかなければならないか、その点について坂田さんからお話しをひとつ……。

坂田　さつき申しましたように、水防活動をぜヒ市町村の皆さんにお願いしたい。

それから無電の装置もして、イザというときは情報をどんどん流しますから、テレビ、ラジオを通しての情報などをよくきいて頂きたい。

荒木　それはぜヒやつて頂きたいですね。われわれはそれを信頼するより他はないのですから……。しかしその信頼を裏切らないように、その連絡も十分密にして頂きたいと思います。

堀　やはり器材の確保とか広報活動などが一番大切だと思うんです。

荒木　そうそう。

堀　この前に話が出ましたが、大雨が降つて、電気も消えた。もう早く寝た方がいいだろうと皆寝てしまつたら、その間に土砂崩れで流されてしまう。

そこで誰か一人起きていなければならないと思いますね。とにかくたつた一晩だけだからそういう心得ですね、結局ナメちやいけませんね。

坂田　そうです。

堀　県としては大いに坂田さんあたりに予算をそつちの方へふり向けて頂いて少しでも安心して眠れるようにですね。

荒木　常に被害者の気持になつて、やつて頂きたいですね。

堀　それはもうぜヒ。われわれとしてはそういうことは〝備えあればうれいなし〟なんであつて……本当にそれだけしてムダのように見えますが、ムダになつた方がいいですね。そういう方面のムダは大いに……

坂田　そういう意味で〝河川改修が促進しますように努力しますし、又水防活動の情報をどんどん流しますから、それをよくきいて頂くようお願いします。

堀　広報活動をやつて頂き、われわれ県民の方では、そういつた予算をとるようなバックアップをしますから……。

坂田　それはぜヒ必要ですから、お願いします。

堀　大いに協力してやつて行きましょう。

（文責・広報課）